

微生物学的検査(一般細菌・感受性試験, 真菌, 目的菌)

項目コード	検査項目	検体・必要量 (mL)と保存	容器	検査方法	実施料区分	備考	報告日数	
一般細菌・感受性試験								
6000	塗抹鏡検	冷		グラム染色など	67 微	材料が便の場合は検査実施しません	1～3	
6020	培養・同定	口腔気道又は呼吸器からの検体	45	分離培養、 生物学的血清学的 性状検査、 質量分析	180	淋菌を目的とする場合は37℃又は室温 に検体を保存してください	3～5	
6021			46		200			
6022		消化管からの検体	41		190			
6024		泌尿器又は生殖器からの検体	41		225			
6026		血液又は穿刺液	47 48 49		225			血液は専用ボトル(カルチャーボトル)で 37℃または室温に検体を保存して提出 してください
6026	その他の部位からの検体	冷	41 45 49		180 微		3～5	
6150	嫌気性培養同定	冷	45 49		122 微	検体採取部位の所定点数に加算します ※1	3～10	
6250	尿中菌数定量	冷	41		微		3～5	
6260	薬剤感受性試験	1菌種		ディスク法 微量液体希釈法 (ブレイクポイント)	185	分離菌により、当会の薬剤組み合わせ セットで実施報告します(P.9参照) 常在菌については実施しません	3～5	
6261					2菌種			240
6262					3菌種以上			310
真菌								
6008	塗抹鏡検	冷		グラム染色 KOH法	67 微		1～3	
6043	培養・同定	口腔気道又は呼吸器からの検体	45	分離培養、 生物学的血清学的 性状検査、 質量分析	180	血液は専用ボトル(カルチャーボトル)で 37℃または室温に検体を保存して提出 してください	3～14	
6044			46		200			
6045		消化管からの検体	41		190			
6046		泌尿器又は生殖器からの検体	41		225			
6047		血液又は穿刺液	47 48 49		225			
6047	その他の部位からの検体	冷	41 45 49		180 微			
6260	薬剤感受性試験	酵母様真菌 1菌種		微量液体希釈法 MIC	150 微	保険収載対象菌種について実施します MIC値でのご報告となります	4～7	

微生物学的検査(目的菌, 原虫, クラミジア)

項目コード	検査項目	検体・必要量 (mL)と保存	容器	検査方法	実施料区分	備考	報告日数
目的菌							
	淋菌	室温		培養同定	※2 微		3~7
	髄膜炎菌	30℃~37℃		培養同定	※2 微		3~7
	百日咳菌	室		培養同定	※2 微		5~7
	ジフテリア菌	室		培養同定	※2 微		5~7
	レジオネラ菌	冷		培養同定	※2 微		10~15
	クロストリジオイデスディフィシル	冷		培養同定	※2 微		3~7
	カンピロバクター	冷		培養同定	※2 微		5~15
	マイコプラズマ	室		培養同定	※2 微		5~10
	アクチノミセス	冷		培養同定	※1 微		7~15
	ヘリコバクターピロリ(培養)	胃生検組織 冷	52	培養同定	※1 微	検体採取には専用培地を用意します	5~7
	MRSA	冷	45	培養同定	※1 微		3~5
	レプトスピラ	血液, 尿 室	7 41	暗視野法	50 微	血液の採取は、必ず抗凝固剤入り滅菌試験管を用いてください	2~3
	カンジダ	冷		培養同定	※1 微		5~7
	アスペルギルス	冷		培養同定	※1 微		10~30
	クリプトコッカス	髄液 冷		培養同定	※1 微		5~7
原虫							
6011	トリコモナス鏡検	尿, 膣分泌物 室	41 45	鏡検	67 微		1~3
6009	赤痢アメーバ鏡検	糞便, 膿 37℃	42	鏡検	45 微	検体は採取後37℃で保温2hr以内に検査を実施する必要があります 保温装置使用以外は実施料61点	1~3
7856	ニューモシスチス・イロヴェチ鏡検	喀痰 冷	41 46	ギムザ染色 TBO染色	67 微	組織材料は病理検査に準じ、ギムザ、TBO染色の2法を実施します	2~3
6006	クリプトスポリジウム鏡検	下痢便3~5g 冷	42	集シスト Kinyoun法	67 微		2~3
5693	アカントアメーバ鏡検	コンタクトレンズ 保存液	41	鏡検	67 微		1~2
5694	アカントアメーバ培養	眼角膜上皮室	45	培養			7~14
クラミジア							
781 782	淋菌およびクラミジア・トラコマチス同時核酸検出 (TMA法)	子宮頸管擦過物 咽頭分泌物, 尿 冷	86 87	TMA法	262 微	泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体にのみ算定します	5~7
7522	クラミジア・トラコマチス核酸検出 (TMA法)	子宮頸管擦過物 咽頭分泌物, 尿 冷	86 87	TMA法	188 微	上と同じ	5~7

※1 採取部位により異なります。

微生物学的検査(結核, 抗酸菌)

項目コード	検査項目	検体・必要量 (mL)と保存	容器	検査方法	実施料区分	備考	報告日数
結核・抗酸菌							
7000	抗酸菌塗抹鏡検	喀痰 気管支洗浄液 胃液・尿・便 胸水・髄液 冷	41 46	チールネルゼン法	85 微	集菌塗抹によります	1~3
7010				蛍光染色法	85 微		
7021	抗酸菌分離培養			液体培養法 (センサー法)	300 微	2~6W	
7083	抗酸菌同定(質量分析法)	(菌株)		質量分析法	361 微	結核菌群を含めて164菌種の抗酸菌が同定できます	3~7
7051	薬剤感受性試験	(菌株)		微量液体希釈法	400 微	新鮮純培養菌株で提出してください セット薬剤については、下記をご参照ください	2W~3W
	結核菌群 (<i>M. tuberculosis</i>)						
	非結核性抗酸菌 (SGM)						
	迅速発育抗酸菌 (RGM)						

保険請求上の注意事項

結核菌群核酸同定→抗酸菌同定検査が併せて実施された場合にあっては主なもののみ算定します。

マイコバクテリウムアビウム・イントラセルラー核酸同定精密検査→他の検査により結核菌が陰性であることが確認された場合にのみ算定出来ます。

抗酸菌同定検査が併せて実施された場合にあっては主なもののみ算定します。

薬剤感受性試験

結核菌群(*M. tuberculosis*)

SM(ストレプトマイシン)	INH(イソニアジド)	LVFX(レボフロキサシン)
EB(エタンブール)	REP(リファンピシン)	CPFX(シプロフロキサシン)
KM(カナマイシン)	RBT(リファブチン)	PAZ(ピラジナミド)

非結核性遅発育抗酸菌(SGM)

CAM(クラリスロマイシン)	AZM(アジスロマイシン)	MFLX(モキシフロキサシン)
STFX(シタフロキサシン)	AMK(アミカシン)	KM(カナマイシン)
MIND(ミノサイクリン)	DOXY(ドキシサイクリン)	INH(イソニアジド)
LZD(リネゾリド)	EB(エタンブール)	TH(エチオナミド)
RBT(リファブチン)	REP(リファンピシン)	

迅速発育抗酸菌(RGM)

AMK(アミカシン)	TOB(トブラマイシン)	IPM(イミペネム)
FRPM(ファロペネム)	LVFX(レボフロキサシン)	MFLX(モキシフロキサシン)
AZM(アジスロマイシン)	CAM(クラリスロマイシン)	DOXY(ドキシサイクリン)
MEPM(メロペネム)	LZD(リネゾリド)	CLF(クロファジミン)
STFX(シタフロキサシン)	ST(スルファメトキサゾール/トリメプリーム)	

受託検体必要量

	鏡検・培養検査	核酸増幅同定検査(直接法)
喀痰	2~10mL	2~10mL
気管支洗浄液		
髄液	5~10mL	5~10mL
尿		
穿刺液		
胃液	5~10mg	5~10mg
生組織		
血液	3~5mL	3~5mL
膿	2~3mL	2~3mL
便	親指大	小指大

微生物学的検査(結核, 抗酸菌, 迅速試験, 毒素試験)

項目コード	検査項目	検体・必要量 (mL)と保存	容器	検査方法	実施料区分	備考	報告日数
結核・抗酸菌							
7084	結核菌群核酸同定(リアルタイムPCR)	(菌株) 喀痰 気管支洗浄液 胃液, 尿, 便 胸水, 髄液 冷	46	リアルタイムPCR法	410 微	結核菌群が ^g 同定できます※2 A	3~5
7085	マイコバクテリウムアビウム・イントラセ ルラー核酸同定(リアルタイムPCR)				421 微	マイコバクテリウムアビウム・イントラセ ルラー核酸同定精密検査 <i>M. avium</i> , <i>M. intracellulare</i> が同定できま す※2 A	3~5
3281	結核菌INF- γ 測定 (QFT-Plus:クオンティフェロンプラ ス)	血液各1.0 室(4本)	21	EIA法	593 免	採血後16時間以内の培養処理がありま すので、採血前にお問い合わせください ※1	4~8

※ 事前にお問い合わせください。

※1 結核菌INF- γ 測定(QFT-Plus:クオンティフェロンプラス)基準値

報告内容	判定、Nil値、TB1値、TB2値、Mitogen値を報告します。
報告パターン	判定:(-),(+),判定不可 必要に応じて別紙報告する場合がございます。

抗酸菌検査項目組み合わせ

検査項目	検査方法	保点	検査依頼組み合わせ				
			1	2	3	4	5
鏡検	ZN法(蛍光法)	93	○		○	○	○
培養	液体培養法(センサー法)	280	○	○	○	○	○
直接 核酸同定	結核菌群核酸同定PCR法	410				○	○
	MAI核酸同定PCR法 (結核菌群PCR(-)時実施)	421					(○)

培養陽性時、菌株検体時の同定検査

抗酸菌同定	質量分析法	361		○			
間接 核酸同定	結核菌群同定PCR法	410			○		
	MAI核酸同定PCR法 (結核菌群PCR(-)時実施)	421			(○)		

微生物学的検査(結核, 抗酸菌, 迅速試験, 毒素試験)

項目コード	検査項目	検体・必要量 (mL)と保存	容器	検査方法	実施料区分	備考	報告日数
迅速試験							
7865	A群溶連菌迅速試験	咽頭ぬぐい液 冷		イムノクロマト法	121 免	チャコール入りの容器は避けてください 他の検査との共用は不可です A	2~4
7866	B群溶連菌迅速試験	髄液 1.0 凍	41 尿・血清	ラテックス凝集法		チャコール入りの容器は避けてください A	2~4
7868	肺炎球菌迅速試験	髄液 1.0 凍	41	ラテックス凝集法	146 免	A	2~4
7869	髄膜炎菌迅速試験	髄液 1.0 凍	41	ラテックス凝集法		培養と併用の時は37°Cでご提出ください A	2~4
7867	インフルエンザ菌(b型)迅速試験	髄液 1.0 凍	41	ラテックス凝集法	129 免	A	2~4
7500	クロストリジオイデスディフィシル毒素	糞便 冷	42	EIA法	80 免	A	2~4
7505	ロタウイルス抗原(定性)	糞便 1g以上 凍※	42	免疫クロマト法	65 免	ロタ、アデノウイルス抗原を同時に測定した場合は主たる検査の所定点数のみ算定します A	2~8
7506	アデノウイルス抗原	糞便 1g以上 凍※	42	免疫クロマト法	60 免		2~8
7507	ノロウイルス抗原	糞便 1g以上 凍※	42	EIA法	150 免	A	2~5

※ 事前にお問い合わせください。

微生物学的検査(菌株同定, その他, 血清型別, ウイルス核酸)

項目コード	検査項目	検体・必要量 (mL)と保存	容器	検査方法	実施料区分	備考	報告日数
毒素試験							
7806	ブドウ球菌エンテロトキシン	菌株室		RPLA法		新鮮純培養菌株で提出してください	A 4~7
7807	ブドウ球菌TSST-1	菌株室		RPLA法			A 4~6
7826	腸炎ビブリオ耐熱性溶血毒TDH	菌株室		RPLA法			A 4~7
7828	毒素原性大腸菌LT易熱性エンテロトキシン	菌株		RPLA法			A 5~10
7813	大腸菌ベロトキシンVT1,VT2	菌株		RPLA法	184 微		3~5
菌株同定・その他							
6054	菌株同定	菌株		生化学的性状 免疫血清反応 質量分析法		新鮮純培養菌株で提出してください	7~15
6160	嫌気性菌同定	菌株	49	生化学的性状 質量分析法		嫌気性菌輸送培地を利用し提出してください	3~14
血清型別							
	サルモネラ血清型別	菌株室		免疫血清凝集法	175 免	新鮮純培養菌株で提出してください	(A)※1 3~10
	シゲラ血清型別	菌株室					3~5
6086	大腸菌血清型別	菌株					3~5
7863	B群連鎖球菌血清型別	菌株室					3~5
6055	緑膿菌O群別	菌株室					A 3~5
ウイルス核酸							
7660	新型コロナウイルス (RNA同定)	冷	55	PCR法	700 微		※2 1~3

※1 一部外部委託

※2 事前にご相談ください。

微生物学的検査(MIC, 環境, 院内感染対策用検査, 検便)

項目コード	検査項目	検体・必要量(mL)と保存	容器	検査方法	実施料区分	備考	報告日数
MIC							
6145	MIC測定 好気性菌	菌株		微量液体希釈法		予約検査 事前にご相談ください	5~7
	嫌気性菌						5~7
環境・院内感染対策用検査							
6074	落下細菌			培養法		培地、実施方法についてはご連絡ください	3~7
6577	拭き取り検査			培養法		培地、実施方法についてはご連絡ください	3~15
6071	無菌試験			培養法		予約検査 事前にご相談ください	7~15
6073	環境検査			培養法		予約検査 事前にご相談ください	7~15
6035	MRSA確認試験	鼻腔材料		培養法		鼻腔内MRSAスクリーニング	2~3
検便※							
6075	便培養	赤痢菌・サルモネラ属菌	糞便	42	培養同定法		3~5
6085		腸管出血性大腸菌O157	糞便	42		3~5	
6088		腸管出血性大腸菌O26	糞便	42		3~5	
6089		腸管出血性大腸菌O111	糞便	42		3~5	
		その他組み合わせ	糞便	42		目的菌の組み合わせをお問い合わせください	3~5

※ 検体採取後は速やかにご提出ください。

微生物学的検査

一般細菌判定について

同定菌種名は Bergey's Manual of Systematic Bacteriology および International Journal of Systematic Bacteriology に記載された菌種名で報告します。

検査結果記載基準

細菌を認めず
 + : 集落数100未満のもの
 2+ : 集落は個々に分離しているが一部融合しているもの
 3+ : 集落数が多く、ほとんど融合しているもの
 4+ : 集落数が極めて多く、培地全面に発育しているもの

感受性検査結果記載基準(CLSI準拠)

微量液体希釈法(ブレイクポイント法)
 ディスク法(Kirby-Bauer法)
 R : 耐性
 I : 中間
 S : 感性

緊急報告

感染症法における一～三類の病原菌, 血液・髄液培養 からの菌が検出された場合、食中毒起因菌が検出された場合

一般細菌検査の検体の取り扱い

検体の採取時期 発病初期、化学療法開始以前に採取してください。化学療法中の患者からは24時間以上中止して採取してください。中止できない場合は抗菌薬の血中濃度が最低のレベルにあると思われる次回投与前に採取してください。

検体の採取方法 常在菌の混入は起因菌の推定を困難にします。できるだけ無菌操作をし常在菌の混入を避けてください。尚、消毒薬混入は病原菌の発育を妨げる場合があるため注意が必要です。

検体の保存方法 検体の乾燥により病原微生物が死滅する場合がありますので、密栓して冷蔵保存してください。ただし、淋菌、髄膜炎菌、ピブリオ属、カンピロバクター、赤痢アメーバを疑う検体は室温で保存してください。カルチャーボトルは可能な限り室温で保存してください。

材料	採取容器	採取量	保存・搬送温度	注意事項
血液	好気ボトル	3～10mL	室温 冷蔵不可	常在菌の混入は起因菌の推定を困難にしますので採取部位の皮膚を十分消毒し、滅菌注射器で採取してください。ボトルへの注入も無菌操作をし、注入後転倒混和してください。
	嫌気ボトル	3～10mL		
髄液・穿刺液	好気ボトル	3～10mL	室温 冷蔵不可	血液と同様の操作で常在菌の混入を避けて採取してください。髄膜炎菌が疑われる場合は室温で保存して、提出してください。
	嫌気ボトル	3～10mL		
	滅菌スピッツ	2～4mL	室温	
膿・分泌液	スワブキット3号		冷蔵	創部は深部より採取し、乾燥を防ぐためスワブキット3号に速やかに入れ提出してください。
尿	滅菌スピッツ	5～10mL	冷蔵	常在菌の混入を防ぐために外陰部、尿道部を十分に消毒し、採取してください。中間尿を滅菌容器に採取し滅菌スピッツに移し提出してください。(淋菌を検査する場合は室温で保存し、提出してください。)
胆汁	滅菌スピッツ	5～10mL	冷蔵	
糞便	採便容器	適量	冷蔵	デフィシル毒素や寄生虫検査は採便容器を使用してください。
	スワブキット3号			
喀痰	喀痰容器	2～5mL	冷蔵	口腔内常在菌を少なくするために滅菌生理食塩水でうがい後採取してください。
咽頭粘液	スワブキット3号		冷蔵	淋菌が疑われる場合は、室温で保存してください。
カテーテル先端 など	滅菌スピッツ		冷蔵	滅菌生理食塩水を2～3mL添加して、乾燥を防ぎ滅菌容器で提出してください。
	スワブキット3号			

微生物学的検査

各種検査材料中より検出される主要病原微生物

検査材料		主に検出される微生物		
血液	急性熱性疾患	<i>Staphylococcus aureus</i> <i>Salmonella</i> sp. <i>Leptospira</i> sp.	<i>Streptococcus pneumoniae</i> <i>Brucella</i> sp. <i>Listeria</i> sp.	<i>Streptococcus</i> sp. <i>Francisella</i> sp.
	亜急性熱性疾患	Coagulase negative Staphylococci <i>Enterococcus</i> sp. <i>Mycobacterium</i> sp.	α - <i>Streptococcus</i> <i>Peptostreptococcus</i> sp. <i>Neisseria meningitidis</i>	<i>Streptococcus pneumoniae</i> <i>Haemophilus influenzae</i> <i>Bacteroides</i> sp.
	髄液	<i>Neisseria meningitidis</i> <i>Staphylococcus</i> sp. <i>Escherichia coli</i>	<i>Streptococcus pneumoniae</i> <i>Streptococcus</i> sp. <i>Mycobacterium</i> sp.	<i>Haemophilus influenzae</i> <i>Listeria</i> sp. <i>Cryptococcus</i> sp.
	尿	Coagulase negative Staphylococci <i>Salmonella</i> sp. <i>Klebsiella</i> sp. <i>Pseudomonas aeruginosa</i>	<i>Enterococcus</i> sp. <i>Escherichia coli</i> <i>Proteus</i> sp. <i>Listeria</i> sp.	<i>Neisseria gonorrhoeae</i> <i>Enterobacter</i> sp. <i>Providencia</i> sp. <i>Mycobacterium</i> sp.
膿	非解放性病巣	<i>Staphylococcus aureus</i> <i>Escherichia coli</i> <i>Actinomyces</i> sp.	<i>Streptococcus</i> sp. <i>Klebsiella</i> sp.	<i>Clostridium</i> sp. <i>Mycobacterium</i> sp.
	解放性病巣	Coagulase negative Staphylococci <i>Clostridium</i> sp. <i>Escherichia coli</i> <i>Providencia</i> sp.	<i>Streptococcus</i> sp. <i>Peptostreptococcus</i> sp. <i>Klebsiella</i> sp. <i>Pseudomonas aeruginosa</i>	<i>Corynebacterium</i> sp. <i>Nocardia</i> sp. <i>Proteus</i> sp. <i>Bacteroides</i> sp.
	口腔, 咽頭, 鼻腔, 副鼻腔の分泌物	<i>Corynebacterium</i> sp. <i>Streptococcus pneumoniae</i> <i>Candida</i> sp.	<i>Streptococcus pyogenes</i> <i>Neisseria</i> sp.	<i>Staphylococcus aureus</i> <i>Bordetella pertussis</i>
	喀痰, 気管分泌物	<i>Mycobacterium tuberculosis</i> <i>Streptococcus pyogenes</i> <i>Bordetella pertussis</i> <i>Pseudomonas aeruginosa</i> <i>Aspergillus</i> sp.	<i>Staphylococcus aureus</i> <i>Actinomyces</i> sp. <i>Listeria</i> sp. <i>Mycobacterium</i> sp. <i>Moraxella catarrhalis</i>	<i>Streptococcus pneumoniae</i> <i>Haemophilus influenzae</i> <i>Klebsiella pneumoniae</i> <i>Candida albicans</i>
	耳及びその周囲からの材料	<i>Staphylococcus aureus</i> <i>Haemophilus influenzae</i> <i>Mycobacterium tuberculosis</i>	<i>Streptococcus pyogenes</i> <i>Actinomyces</i> sp. <i>Candida</i> sp.	<i>Streptococcus pneumoniae</i> <i>Pseudomonas aeruginosa</i> <i>Mucor</i> sp.
	胃液	<i>Mycobacterium tuberculosis</i>	<i>Helicobacter pylori</i> (胃組織)	
	胆汁	<i>Salmonella</i> sp.	Enterobacteriaceae	
	糞便	<i>Salmonella</i> sp. <i>Yersinia</i> sp. <i>Staphylococcus aureus</i> 腸管出血性大腸菌	<i>Shigella</i> sp. <i>Aeromonas</i> sp. <i>Clostridium difficile</i>	<i>Vibrio</i> sp. <i>Campylobacter</i> sp. <i>Clostridium perfringens</i>
	膣, 子宮, 尿道分泌物	<i>Staphylococcus</i> sp. <i>Neisseria gonorrhoeae</i> <i>Mobiluncus</i> sp.	<i>Streptococcus</i> sp. Enterobacteriaceae <i>Candida albicans</i>	<i>Enterococcus</i> sp. <i>Gardnerella vaginalis</i> <i>Trichomonas vaginalis</i>
	皮膚よりの材料	<i>Staphylococcus</i> sp. <i>Actinomyces</i> sp. <i>Epidermophyton</i> sp.	<i>Streptococcus</i> sp. <i>Mycobacterium</i> sp. <i>Microsporum</i> sp.	<i>Corynebacterium</i> sp. <i>Candida albicans</i> <i>Trichophyton</i> sp.
	眼結膜分泌物	<i>Staphylococcus</i> sp. <i>Haemophilus influenzae</i> <i>Pseudomonas aeruginosa</i>	<i>Streptococcus</i> sp. <i>Moraxella catarrhalis</i>	<i>Streptococcus pneumoniae</i> <i>Neisseria gonorrhoeae</i>

薬剤感受性試験

系統	略語	菌種					薬剤名
		グラム陽性菌	グラム陰性菌	嫌気性菌	ストレプトコッカス ヘモフィルス	コリネバクテリウム その他	
ペニシリン系	PCG	○		○	(ストレプトのみ) ○		ペニシリンG
	ABPC	○	○	○	○	○	アンピシリン
	PIPC		○			○	ピペラシリン
	MPIPC	○					オキサシリン
セフェム系	CCL		○		(ヘモフィルスのみ) ○		セファクロル
	CFIX						セフィキシム
	CEZ	○	○				セファゾリン
	CTM	○	○		○	○	セフォチアム
	CTX		○		○		セフォタキシム
	CAZ		○	○			セフトアジウム
	CZX			○			セフトキシム
	CPR	○	○			○	セフピロム
	CMZ	○	○	○			セフメタゾール
	CTRX				○	○	セフトリアキソン
	CFPN		○			○	セフカペン
	CFPM	○	○	○	○		セフェピム
	CZOP	○	○		○		セフォゾラン
	CDTR	○	○		○	○	セフジレン
	CFDN	○	○				セフジニル
FMOX	○	○	○		○	フロモキシセフ	
カルバペネム系	IPM	○	○	○			イミペネム
	MEPM	○	○	○	○	○	メロペネム
ペネム系	FRPM		○				ファロペネム
β-ラクタマーゼ 阻害剤との合剤	AMPC/CVA	○	○	○	○	○	アモキシシリン/クラブラン酸
	ABPC/SBT	○		○			アンピシリン/スルバクタム
	CPZ/SBT		○	○			セフォペラゾン/スルバクタム
	PIPC/TAZ		○	○			ピペラシリン/タゾバクタム
モノバクタム系	AZT		○		○		アズトレオナム
アミノグリコシド系	AMK	○	○				アミカシン
	TOB		○				トブラマイシン
	GM	○	○				ゲンタマイシン
	ABK	○					アルベカシン
マクロライド系	EM	○			(ストレプトのみ) ○	○	エリスロマイシン
	CAM	○					クラリスロマイシン
	AZM				○		アジスロマイシン
リンコマイシン系	CLDM	○		○	(ストレプトのみ) ○	○	クリンダマイシン
テトラサイクリン系	TC						テトラサイクリン
	MINO	○	○	○	○	○	ミノサイクリン
キノロン系	LVFX	○	○	○	○	○	レボフロキサシン
	CPFX		○		(ヘモフィルスのみ) ○		シプロフロキサシン
ポリペプチド系	VCM	○			(ストレプトのみ) ○		バンコマイシン
	TEIC	○					テイコブラニン
クロラムフェニコール系	CP			○	○	○	クロラムフェニコール
その他の抗生薬	FOM	○	○				ホスホマイシン
	RFP	○			○		リファンピシン
	ST	○	○		○		スルファメトキサゾール/トリメプリム
	LZD	○					リネゾリド

グラム陽性菌・グラム陰性菌・ストレプトコッカス・ヘモフィルス・嫌気性菌は微量液体希釈法、コリネバクテリウム・その他はディスクで測定しております。

感染症法における感染症の分類 (2025年4月1日現在)

分類	疾病名	届出の要否			届出方法	
		患者 (確定例)	疑似症	無症状病原 体保菌者	報告対象	時期
一類	エボラ出血熱	○	○	○	全数	直ちに
	クリミア・コンゴ出血熱	○	○	○	全数	直ちに
	痘そう	○	○	○	全数	直ちに
	南米出血熱	○	○	○	全数	直ちに
	ペスト	○	○	○	全数	直ちに
	マールブルグ病	○	○	○	全数	直ちに
	ラッサ熱	○	○	○	全数	直ちに
二類	急性灰白髄炎(ポリオ)	○	×	○	全数	直ちに
	結核	○	○	○	全数	直ちに
	ジフテリア	○	×	○	全数	直ちに
	重症急性呼吸器症候群 (病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る)	○	○	○	全数	直ちに
	中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る)	○	○	○	全数	直ちに
三類	鳥インフルエンザ(H5N1)	○	○	○	全数	直ちに
	鳥インフルエンザ(H7N9)	○	○	○	全数	直ちに
	コレラ	○	×	○	全数	直ちに
	細菌性赤痢	○	×	○	全数	直ちに
	腸管出血性大腸菌感染症	○	×	○	全数	直ちに
	腸チフス	○	×	○	全数	直ちに
	パラチフス	○	×	○	全数	直ちに
四類	E型肝炎	○	×	○	全数	直ちに
	ウエストナイル熱	○	×	○	全数	直ちに
	A型肝炎	○	×	○	全数	直ちに
	エキノコックス症	○	×	○	全数	直ちに
	エムポックス	○	×	○	全数	直ちに
	黄熱	○	×	○	全数	直ちに
	オウム病	○	×	○	全数	直ちに
	オムスク出血熱	○	×	○	全数	直ちに
	回帰熱	○	×	○	全数	直ちに
	キャサヌル森林病	○	×	○	全数	直ちに
	Q熱	○	×	○	全数	直ちに
	狂犬病	○	×	○	全数	直ちに
	コクシジオイデス症	○	×	○	全数	直ちに
	ジカウイルス感染症	○	×	○	全数	直ちに
	重症熱性血小板減少症候群 (病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る)	○	×	○	全数	直ちに
	腎症候性出血熱	○	×	○	全数	直ちに
	西部ウマ脳炎	○	×	○	全数	直ちに
	ダニ媒介脳炎	○	×	○	全数	直ちに
	炭疽	○	×	○	全数	直ちに
	チクングニア熱	○	×	○	全数	直ちに
	つつが虫病	○	×	○	全数	直ちに
	デング熱	○	×	○	全数	直ちに
	東部ウマ脳炎	○	×	○	全数	直ちに
	鳥インフルエンザ 〔鳥インフルエンザ(H5N1)及び(H7N9)を除く〕	○	×	○	全数	直ちに
	ニパウイルス感染症	○	×	○	全数	直ちに
	日本紅斑熱	○	×	○	全数	直ちに
	日本脳炎	○	×	○	全数	直ちに
	ハンタウイルス肺症候群	○	×	○	全数	直ちに
	Bウイルス病	○	×	○	全数	直ちに
	鼻疽	○	×	○	全数	直ちに
	ブルセラ症	○	×	○	全数	直ちに
	ベネズエラウマ脳炎	○	×	○	全数	直ちに
	ヘンドラウイルス感染症	○	×	○	全数	直ちに
リフトバレー熱	○	×	○	全数	直ちに	
類鼻疽	○	×	○	全数	直ちに	
レジオネラ症	○	×	○	全数	直ちに	
レプトスピラ症	○	×	○	全数	直ちに	
ロッキー山紅斑熱	○	×	○	全数	直ちに	
発しんチフス	○	×	○	全数	直ちに	
ポツリヌス症	○	×	○	全数	直ちに	
マラリア	○	×	○	全数	直ちに	
野兔病	○	×	○	全数	直ちに	
ライム病	○	×	○	全数	直ちに	
リッサウイルス感染症	○	×	○	全数	直ちに	

分類	疾病名	届出の要否			届出方法	
		患者 (確定例)	疑似症	無症状 病原体 保菌者	定点種別	時期
五 類	アメーバ赤痢	○	×	×	全数	7日以内
	ウイルス性肝炎 (E型肝炎及び、A型肝炎を除く)	○	×	×	全数	7日以内
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	○	×	×	全数	7日以内
	急性弛緩性麻痺 急性脳炎 (ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ 脳炎及びリフトバレー熱を除く。)	○	×	×	全数	7日以内
	クリプトスポリジウム症	○	×	×	全数	7日以内
	クロイツフェルト・ヤコブ病	○	×	×	全数	7日以内
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	○	×	×	全数	7日以内
	後天性免疫不全症候群	○	×	○	全数	7日以内
	ジアルジア症	○	×	×	全数	7日以内
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	○	×	×	全数	7日以内
	侵襲性髄膜炎菌感染症	○	×	×	全数	直ちに
	侵襲性肺炎球菌感染症	○	×	×	全数	7日以内
	水痘 (入院例に限る)	○	×	×	全数	7日以内
	先天性風疹症候群	○	×	×	全数	7日以内
	梅毒	○	×	○	全数	7日以内
	播種性クリプトコックス症	○	×	×	全数	7日以内
	破傷風	○	×	×	全数	7日以内
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	×	×	全数	7日以内
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	○	×	×	全数	7日以内
	百日咳	○	×	×	全数	7日以内
	風しん	○	×	×	全数	直ちに
	麻しん	○	×	×	全数	直ちに
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	○	×	×	全数	7日以内
	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	○	×	×	急性呼吸器 感染症基幹※1	次の月曜
	RSウイルス感染症	○	×	×	小児科	次の月曜
	咽頭結膜熱	○	×	×	小児科	次の月曜
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	×	×	小児科	次の月曜
	感染性胃腸炎	○	×	×	小児科 基幹 ※2	次の月曜
	水痘	○	×	×	小児科	次の月曜
	手足口病	○	×	×	小児科	次の月曜
	伝染性紅斑	○	×	×	小児科	次の月曜
	突発性発しん	○	×	×	小児科	次の月曜
	ヘルパンギーナ	○	×	×	小児科	次の月曜
	流行性耳下腺炎	○	×	×	小児科	次の月曜
	急性出血性結膜炎	○	×	×	眼科	次の月曜
	流行性角結膜炎	○	×	×	眼科	次の月曜
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	○	×	×	基幹	次の月曜
	細菌性髄膜炎 (侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症及び侵襲性肺炎球菌感染症を除く。)	○	×	×	基幹	次の月曜
	マイコプラズマ肺炎	○	×	×	基幹	次の月曜
	無菌性髄膜炎	○	×	×	基幹	次の月曜
	性器クラミジア感染症	○	×	×	STD	翌月初日
	性器ヘルペスウイルス感染症	○	×	×	STD	翌月初日
	尖圭コンジローマ	○	×	×	STD	翌月初日
	淋菌感染症	○	×	×	STD	翌月初日
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	○	×	×	基幹	翌月初日
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	×	×	基幹	翌月初日
	薬剤耐性緑膿菌感染症	○	×	×	基幹	翌月初日
新型コロナウイルス感染症 (病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルスで令和二年一月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。)	○	×	×	急性呼吸器 感染症基幹※1	次の月曜	
急性呼吸器感染症	○	×	×	急性呼吸器 感染症基幹※1	次の月曜	

※1 インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)及び新型コロナウイルス感染症(病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス(令和二年一月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。))であるものに限る。)の基幹定点の届出については、届出対象は入院したもので、届出内容は入院時の対応を加える。

※2 感染性胃腸炎の基幹定点の届出については、届出対象は病原体がロタウイルスであるもので、届出内容は原因病原体の名称及び検査方法を加える。